

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

昭和

1

JANUARY
1994



新春 新年のご挨拶

No.447



季節の香

かおり

【スイセン／水仙】

海辺の斜面を白く彩り、そこだけは光に満ちていた。越前岬はスイセンの香りが溢れている。若者が出荷の準備に忙しい。明日はこの花が街角の窓辺を飾る。

属名のナルキッソスはギリシャ神話の少年の名に因む。少女に冷たくした美少年を戒めるため神が仕掛けたというが、水面に映る自分に恋こがれて死んでしまうという悲しい物語である。

町の中。土塀の崩れから、スイセンの花が覗いている。日溜りで福良雀がまるく震え、人影のない境内は静寂としていた。石地蔵にあたる太陽が、僅かに温もりを伝えてはいるが、竹林を揺るがせて北風が吹き過ぎて行く。耳を澄ますと遠く汽笛が聞こえた。

寒い季節に咲く、スイセンの強情っぱりな雰囲気がいじらしく思える。

COLUMN

◆白土三平の「忍者武芸帳」は、いつも誰かが借り出していた。劇画誌の「街」や「影」手塚治虫の「COM」も異常なまでの人気があった。少年マガジンの創刊された一九五九年、貸本屋の全盛期の頃のことである。今、当時の漫画本が一冊数万円で取引され、貴重品扱いされている。手塚治虫の初期の作品は八十万の値がついた。戦後間もない頃の紙質の粗悪なものは、残部数が少なく高価になるが、こだわりのマニアが買っている。

ガラスの地球を救え

◆手塚治虫は漫画を通じて「生きものへの賛歌」を詩い、得意のSF漫画で「科学文明への疑問」を提起した。天才的な筆力が生み出した数多くのキャラクターに自然の大切さを語らせ「自然保護と反戦」を訴え、生命の尊さを語り続けた。死の床にあってもペンを離さなかった。『自然を守り、生きているものを守ること。発達してきた科学は使い方により人間の敵となる。ガラス玉のような地球を救え』。

◆白いライオンの活躍するシリーズは楽しかった。彼の漫画は視角的な方法による哲学の書である。誰もが通りすぎる漫画年齢は、親の言うタメになる本とは程遠いモノを好む年頃だ。その時期に手塚治虫のものを取りあげて貰いたい。どの作品にも、彼の思想が色濃く表現されていて感動できる。宝塚に手塚記念館が建つという。喜ばしい話だ。(遊方子)

拓水

JANUARY

CONTENTS

新春

1

新年のご挨拶 酒部 龍三 貝原 俊民
本下 堯敏 高畑 孝充
山内 幸児 池尻 文二
伊東 正義 木下 清

水試ノート 6
冷凍変性の防止について

インフォメーション 7
高砂市四漁協、合併推進協議会を結成

TOPICS 8
淡路地区漁協役員研修会

漁海況情報 9
海区漁業調整だより

栽培漁業センターです 10
普及員だより
技術交流事業について

旬の美味しい話 11
たちうおの厚焼卵

兵庫JCC通信
・農政や減反厳しく批判
ともに米を考えようフォーラム
・全国消費者大会
PL法早期制定を求める決起集会

こちら海ですロケだより
香住・いい冬・冬便り
城崎郡香住町より

今月の表紙

フォトギャラリー



表紙撮影
綿貫敏彰さん
〈県漁連〉

フォト歳時記

書写山の力士(円教寺奥の院にて)
軒端の風鐸を微かに揺すって、冷たい風が過ぎる。人影も見えぬ無我の境地。バサッと枯枝が落ちた。
力士は背なげに屋根の重みを負って、忍耐の極みにあった。持てる力を出し尽くした形相をしている。
重いザックを背負い、額に汗しながら野営地をめざした頃を思う。背に食い込む重量感が生きていた喜びだった。夜、満天の星を仰いで、山の音を聞いた。
力士の表情に笑いが見える。愚かな人間どもよ。厳しい試練にどう立ち向かうかと。

表紙写真募集

アマチュアの方で、ご自慢の写真がございましたら、左のように明記して、お送り下さい。写真は必ずご返却いたします。①写真撮影場所②氏名(フリガナ)③郵便番号・住所④自宅電話番号(市外局番号も)⑤年齢・職業
送り先

千六五二神戸市兵庫区中之島二丁目
一〇一 県立水産会館
兵庫県漁業協同組合連合会
指導部指導課「拓水」係宛

新春



新年のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会
会長理事 酒部 龍三

新年あけましておめでとございます。年頭に当たり謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと日本経済は景気の低迷が続き、春頃には底を打ったとも言われていましたが、円高や冷夏・長雨の影響で回復の契機も失われたまま新しい年を迎えることになりました。

こうした影響で低金利政策が採られたにも拘らず、民間の設備投資は急テンポで減少しておりますし、雇用調整を行う企業が多く完全失業率の上昇が続いていることなどから、国民の期待を背負い昨年八月に誕生した連立政権にとっても、政治改革・コメ市場開放問題等に合わせ景気対策が重要な課題となっております。

私たちの漁業経営も少なからずこうした景気低迷の影響を受けていますが、感覚的には気象等の自然環境に大きく影響されるもの幸い我々業界としては、こうした景気の影響は他産業ほどではないと感じられます。しかしながら、新しい年を迎えた今、漁業をめぐる環境は決して楽観が許される状況にはなく、漁協系統にも克服しなければならぬ課題が多くある中で、漁業のおかれている環境を正しく認識し時宜を得た行動が望まれます。

す。

そうした意味において指針になるのが平成四年に開かれた第四回全国漁協大会の運動方針ですが、中でも資源管理型漁業の推進については、海の上の協同運動として全国各地で漁業者が主体となった運動が活発に展開されており、各漁連が次々と資源管理計画を策定し実践に移っています。本県においてもこれまで各業種あるいは地区検討会の結果を踏まえ、内海・日本海ブロックにおいて検討を重ねられ近々にも広域管理計画が策定されることになっていきます。実践に当たっては、栽培漁業の発祥の地でもあり、青壮年部が中心となって全国にさがかけて率先実行してきた「ガザミふやそう会」「バックフィッシュ運動」の実績からも先駆者の誇りをもって進め、本当に効果のあるものとして行こうではありませんか。

また、漁協組織の強化も運動方針の基本テーマの一つですが、大会以来組織・事業の再構築に向けて系統の総力を挙げた取り組みが始められました。制度面での支援が不可欠であることから全漁連政策部会を中心に検討に当たり、平成五年三月末で期限切れとなる漁協合併助成

法の延長、及び、水協法について組織強化につながる改正要望をまとめ関係先へ要請した結果、合併助成法については漁業権放棄変更手続きの特例を新設した5ヶ年の延長が、また水協法については漁協の事業内容の充実・執行体制の強化・事業譲渡規程の整備という三本柱が盛り込まれた内容で、四月十六日に改正案が国会で可決成立、合併助成法は四月二十三日に、水協法は十月十五日にそれぞれ施行されました。

漁協の合併については、平成四年度に全国で十三件関係漁協数四十六漁協と十八年ぶりに二桁台の実績が達成され、平成五年度においても十月現在で八件三十九漁協と引き続いて高い水準となっております。一方では昨年四月に全漁連が漁協合併推進要綱を決定、五月には合併推進運動の更なる展開を図るため『漁協合併推進中央本部』を設置するなど、合併助成法の延長に合わせ運動もムードもいよいよ昂ってまいりました。

本県においても、優先着手の七地区を中心に真剣な協議を重ねられており、乗り越えなければならぬ障害は多くありますが、組合員の営漁と生活の向上を実現し、同時に漁協に求められている社会的役割を果たすことができる組織づくりを目指し、本県でも合併が着実に実現していくことを確信しております。

このように今年には、新しい漁業や組織づくりへの転換期として重要な年になりますが、県漁連としても皆さんと充分連携を取りながら、本県水産業の発展と系統運動の推進に努力して参りますので、今後一層のご協力と、ご指導ご支援をお願いいたします。

終わりにになりましたが皆様の健康とご多幸をお祈りいたしまして新年のご挨拶といたします。

花ひらく交流の舞台

兵庫県知事 貝原俊氏



人つどい行き交う 新たな空の門戸
関西・神戸・播磨の開港に先んじ
銀翼 飛行のときを待つ但馬空港
天翔ける コウノトリに似せて
見晴るかす眼下 県央の輝きは
科学の光 學術の炎か文化の火影か
西に東に 南に北に
新しい世紀へ 兵庫の鼓動は弾む

淡雪かぎろう 山並みにこだまする
但馬・理想の都の 祭典讃歌は
“あしたのふるさと” 愛でる語らいか
兵庫に緑のバトン受け継ぐ全国植樹祭
胸にそよ風 心にみどりをと
五五〇万県民が全国に呼びかけるは
人と自然の 交流メッセージ
いま “ごころ豊かな兵庫” に芽吹く
実り豊かな 正夢のときめき――

新年を迎えて



兵庫農林水産部
水産課長
本下 堯敏

明けましておめでとうございます。
漁村の皆様には、ご家族お揃いで清々しい新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

新しい年が輝かしい希望と飛躍への期待に満ちた歳月になりますよう心から祈念申し上げます。

顧みますと昨年は、世界的に新しい秩序の構築に向けて歩み始めた歳であったと思えます。なかでも、東西関係の緊張緩和を背景として、我が国が初めて海外協力に人的支援を行ったカンボジアで新しい民主的な政府が樹立されたり、日本の国連安全保障理事会常任理事国入りが協議されるなど、世界和平に向けて我が国の果たす役割がいよいよ高まってきた歳でありました。

国内では、バブル経済の崩壊による低迷景気の底割れが懸念されるなかで、政治改革を争点とした総選挙が実施された結果、新しい政権が生まれるなど激動の一年でもありました。

一方、金融自由化もいよいよ最終段階を迎えつつありますが、これにバブルの崩壊が加わって金融機関の再編も着実に進められておりまして、本県においても漁協の合併が緊急の課題となっています。

このような背景のもと、社会の変化に対応するとともに構成員のニーズにきめ細かく対応し得るダイナミックな組織作りを目指して、兵庫県漁協事業基盤強化基本方針を策定するとともに、関係地域の方々と協議しながら合併漁協の青写真作りを進めているところでございます。系統・行政各関係機関協力のもとこれの実現に向けて関係各位の一層のご尽力をお願い申し上げます。

また、日本海においては、国際的な視野のもと、水産資源の永続的有効利用に向けて日本海水産国際フォーラムを本年に開催するほか、待望久しかった但馬栽培漁業センターを四月にオープンさせる予定であります。

さらに、快適但馬と新しいライフスタイルの創造をテーマとして開催される但馬・理想の都の祭典の一環として、海の文化を紹介する但馬海中公園展が四月九日からほぼ年内いっぱい香住町において開催される予定であります。こうした機会に改めて海の文化にふれたい、資源保護・自然保全等々について造詣を深めていただきましたらと考えております。

なお、海中公園展の開催に向けては、関係各位に一方ならぬご協力を賜っておりますこととさせていただきます。この紙面をお借り致しまして厚くお礼申し上げます。

さて、二十一世紀も目前に迫ってまいりましたが、一昨年にも策定いたしました「農林水産業・農山漁村活性化重点方策」の着実な達成を目指し、本年の水産施策の推進にあたっては、次の二点に重点を置いて積極的に進めていくこととしております。

その一つは、たくましい水産業と活力ある漁村づくりであります。

この目標を実現していくためには、漁業生産活動基盤を充実・発展させていくことが大切です。その手段として、漁協合併、環日本海フォーラム、担い手対策、水産物の高付加価値化、バイオテク等新技術の開発普及などに取り組んでまいります。

二つめは、資源管理型漁業の推進であります。

漁業生産の増大と資源の永続的な利用を図るため、資源の適切な管理、漁場の整備開発、栽培漁業の拡大を進めるとともに、養殖業の振興や漁場環境の保全などに努めてまいります。

そのなかで、特に、日本海においては、水産資源の保護や漁業操業の適正化を図るため、二百海里制度の適用を国及び関係機関に引き続き強く訴えてまいります。また、瀬戸内海においては、平成十年に明石海峡大橋が開通

新春のごあいさつ

して社会経済条件が大きく変動すると予想されることから、その対応方策の検討を強化してまいりたいと考えております。

今、時代は、対立から融和・統合へと着実に動いています。

我々水産業に携わる者にとつて最も大切なことは、社会の動きに対応できる能力を養い、活力ある漁村づくりを目指して、ともに助け合い、英知を出し合って二十一世紀に向かって掲げた目標を一つ一つ実現していくこととあります。

私達も皆様と手を携えあつて汗を流し努力することをお誓いいたしますとともに、最後になりましたが、戊歳が皆様にとりまして実りある良い歳になりますよう心から祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

新春を迎えて



兵庫農林水産部
漁港課長
高畑 孝充

新年明けましておめでとうございます。皆様方にはご家族お揃いでよき年をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。

新しい年を迎え、漁港を担当する一人として、水産資源の減少、輸入水産物の増加など依然厳しい状況が続くなか、漁業経営の安定と水産業の振興に向けて、一層のエネルギーを傾注し重責を全うして参りたく、身の引き締まる思いが致しております。

昨年を振り返ってみますと、梅雨前線の長期停滞、相次ぐ台風襲来、戦後最悪のコメ凶作をもたらした冷害、そして何よりも奥尻島に壊滅的な被害をもたらした北海道南西沖地震による大津波等、近年になく自然の災害が強く印象に残った一年であったように思います。漁港の整備を進めていく上でも、防波堤など自然の猛威に対する備えがいかに重要であるかを改めて痛感いたしました。

また、昨年は一部の評論家による漁港整備等への批判が大きな話題となった一年でもありました。漁業のほんの一面だけを捉え、漁港整備が不要であるとしたこのような批判により、国民に誤解を招くようなことがあったことは非常に残念に思います。ただ、一般の国民にとっては漁業集落が閉鎖的な印象を与えている面もあり、水産業や漁村に対する正しい理解が必ずしも得られていないのではなにかと思われず。

平成六年度から新たに、十一年度までの六か年間を計画期間とする第九次漁港整備長期計画及び沿岸漁業活性化構造改善事業が始まりますが、第九次漁港整備長期計画においては、そのような漁港利用の現状や近年の水産業の動向を踏まえ、『国民が開かれた漁港』をメインテーマとし、①沿岸域の高度利用、②消費者ニーズに合致した水産物の安全供給、③ふれあい漁港漁村空間の創出、④快適で活力ある漁港漁村の形成、⑤美しい海辺環境の保全と創造の五点をその基本目標として整備を進めてまいります。

具体的に申しますと、つくり育てる漁業、資源管理型漁業の推進のための、また、避難拠点としての漁港整備を進めるとともに、活魚など新時代の流通・加工基地づくりをはじめとする水産物の生産基地としての漁港機能充実を図ります。

また、高齢者や女性に配慮した施設の整備、漁業集落排水施設・漁業集落道等の整備など、漁村に暮らす人々の生活環境の向上を図ります。

さらに、人と魚でにぎわう場でありながら、いつの間にか閉ざされた空間となり、人が寄りつかなくなつてしまつた漁港の本来の活気を取り戻すため、一般の人々が海とふれあう場としてのふれあい漁港漁村や、漁船と遊漁船・プレジャーボートの利用調整を図るフィッシュアリーナなどの整備を進め、海と魚に対する国民の多様なニーズに対応する「国民が開かれた漁港づくり」を推進します。

一方、沿岸漁業活性化構造改善事業では、海の生産力の向上と資源に見合った健全な漁

業の育成、需要変化・消費動向に対応した供給体制の確立、漁村におけるゆとりの創造と快適な労働・生活環境づくり、都市住民との交流促進等による漁村社会との活性化を目標として、簡易排水や健康管理施設といった漁村社会における漁業生産基盤、近代化施設及び生活環境関連施設の整備を推進します。

以上述べましたように、六年度から新たな漁港整備による工事等が始まり、皆様方には何かとご迷惑をおかけすることになるとは存じますが、今後とも漁港の整備促進、活力に満ちあふれた漁村地域の形成のために全力をつくす所存ですので、引き続き皆様方のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方のご多幸をお祈りし、新年のご挨拶といたします。

平成六年 年頭あいさつ



兵庫県立水産試験場長
山内 幸児

謹んで新年のお喜びとご挨拶を申し上げます。

皆様の暖かいご支援をいただき、水産試験場が二度目の新年をつつがなく迎えることができましたこと、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、まず普及部が新設されて一課三部制となったこと、普及部が新設されたこと、普及部の活動により水産試験場と皆様の距離がより近くなり、出来るだけ地域の要望にそった調査や技術開発を進めている体制になってきました。

次に水産総合情報システムが設置されたことは、すでに環境や漁海況情報として関係機関にファックスしているのよ、存じてでしょう。今後、更に多数の情報が収集伝達できるようにし、実際の漁業に役立つように整備を進めているところであります。

なお、この環境情報でお知らせしたように、

前年に引き続き赤潮の発生は認められませんが、冷夏の影響で水温が平年値より八月で一・五℃、九月で一・二℃低い現象が観測されました。その他、低塩分の傾向が続いていますが、いまのところ特に海面漁業では大きな影響は報告されていません。

漁海況ではマダゴの豊漁が目立ちましたが、シラスが前年と同じく不漁で船曳網漁業に深刻な影響が現れました。この対策として資源調査を広域化したり、他県との情報交換を密にして、漁業に有効な予報を速報するよう計画しております。なお水産加工・流通の専門家で構成された県水産加工品推奨委員会を設置し、まず県内で水揚げされた良質なシラスについて推奨マークを認定して販売できるようにしました。なおこの推奨品は、本年には県産ブランドとして認定されることになっており、消費者に安全でおいしい本県産シラスを選ぶよう訴えていきます。

ノリ養殖では、初期生産が「穴あき症」の発生で大きな被害がございましたが、後期生産は順調でシーズンでみれば平年をやや上回る結果で終漁することができ、養殖指導と集団管理についての今後のいいモデルができたと考えています。なお穴あき症については、現在病原菌を分離して、この防除対策のための基礎研究を進めています。その他の主要な病害でありますシログサレ症やバリカン症の調査研究も引き続き実施してまいります。



新春のごあいさつ

内水面漁業では主要なアユの種苗生産、放流が順調に行われ、漁獲も全般に良好でしたが、淡水養殖ではウイルス病が多発したり、冷夏が引金となったと推察される冷水病被害がかなり認められたことから、病害防除対策の強化を検討しております。なお主要な河川については、オヤナミなどの希少魚を指標として環境保全や資源保護を目的とした調査を実施しております。

上記の例のように昨年はかなり問題が山積みでしたが、本年は四月には但馬栽培漁業センターが開所し、いよいよ日本海側にも本格的に種苗放流に基づく栽培漁業が展開されるようになっています。一方、将来ここでの新魚種となるようズワイガニ種苗生産技術開発を懸命に続けています。その他、内海側の種苗生産の新たな対象種であるシログサやマダゴの種苗生産技術開発も順調に進んでいます。

また平成七年度開所をめざして内水面漁業センターの建設が朝来郡朝来町で始められるなど、今年には明るいニュースで幕開けいたしました。

本年が豊かな資源管理型漁業に向かって皆様の力が結集されジャンプの年となりますよう、またご健勝と海上安全を心からお祈りし、新年のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶



全国漁業協同組合
連合会 会長理事
池尻 文二

年頭にあたり謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

私たち漁協システムをめぐる情勢は今、大きな環境変化を迎えておりますが、来たるべき新時代に対応するためシステム全体が未来への組織づくりに向け新たな運動に取り組んでおります。

それは第四回全国漁協大会で採択した「海

の上の協同」を理念とする資源管理型漁業の推進をはじめ、漁場環境の保全ならびに漁協システムの組織強化という基本問題への実践運動であります。

その実践初年度であった昨年は、運動の土台づくりに着手し、漁協合併助成法の第五次延長および水協法の改正を実現しました。とくにこの度の法改正は、漁協合併助成法の延長では「漁業権放棄変更手続の特例」が新設されましたし、水協法の改正では「漁協の事業内容の充実」「執行体制の強化」「事業譲渡手続の整備」という重要な支援策が盛り込まれたのが特徴であります。

これによって制度面からの力強いバックアップができ、意識改革の拡がりとともに運動の気運は全国的な大きな盛りあがりを見せてきています。

とりわけ「海の上の協同」への取り組みでは、各地で開催される漁協大会のスローガンに必ずといっていいほど資源管理型漁業の推進が掲げられ、関心の高まりが現れております。長い間、全国の浜を風靡してきた「親のカタキと魚は見たとき獲れ」という感情は影をひそめ、浜の空気に新しい風が吹きはじめたことが実感として強く感じられます。

また、漁協合併も昨年は十八年ぶりの二ヶ台という一昨年の記録を継続する取り組み状況であり、信用事業譲渡でも五十有余にのぼる漁協数を数えるなど、各地の真剣な運動の成果が着々と実を結び誠心強いのがあらわれます。

本年はこれらの運動の成果を踏まえ、実践第二年度として一層幅の広い運動展開を図り、「海の上の協同」と組織強化の運動を軸とした明るい漁村づくりに専念していきたいと存じます。

さて、本年は日韓漁業問題で自主規制措置が期限切れとなる大詰めの年であります。この問題につきましては昨年十月に二百海里確立全国漁民大会を開催し、私たちの切実な訴えを内外に強くアピールし、大会は大きな反響を呼び盛会裡に終了することができました。さらにその後、私は日韓首脳会議に臨む細川

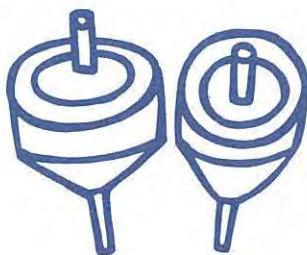
首相を訪問し、私たちの意向を伝えましたところ、帰国後に首相より私に直接電話があった。韓国の金泳三大統領は「漁業問題は必ず正させます」と明言されたとの報告を受けました。

このようなことは私の長年にわたる漁政活動でも例のないことであり、また画期的なことでありました。本年はこれらの経過を十分に活かし、日韓漁業の新しい枠組みづくりに向け一層の努力を行いたいと存じます。

また、ガット・ウルグアイ・ラウンド交渉にみられるように国際情勢は市場開放への方向を歩んでいます。今やわが国の水産物輸入は確実に増大し、その輸入額は国内生産の三分の二相当を占めるに至っています。このことは国内水産物の価格低迷の大きな要因となっており、今後わが国が水産物輸入の対応と漁業体質の強化を図り、国際化の進行に対し適切な対策を講じていくことが必要となっています。

顧ると、昨年は長雨や天災などにみわれ、また周辺漁場も資源状態が回復せず漁業生産も減少するなど、漁業経営にとって不安の多い年でありました。本年は二十一世紀に向けた漁業生産基盤の整備と漁村地域の活性化のため、沿岸・沿構・漁港の三つの長期計画がスタートする沿岸新時代の幕明けの年であり

ます。新機一転、あらゆる困難を克服して、未来への展望を切り開き明るい漁村づくりへ自信をもって前進することを確信し、新年のご挨拶といたします。



「漁協共済」の確立へ

さらに一歩



全国漁業共済組合連合会
全国共済水産業協同組合連合会
会長理事
伊東 正義

全国の漁村の皆さん、明けましておめでとうございます。

内外情勢がめまぐるしく変化するなかで、漁業の置かれた環境もまたきびしさを増しつつありますが、これからの漁業・漁村の将来を考えると、漁協運動に課せられた任務はいつそう大きいといえます。そのなかで、漁業者の経営と暮らしをまもる重要な分野の事業として、「漁協共済」の取り組みは急務であることをあらためて痛感いたします。

「漁協共済」のうち、「ぎよさい」につきましては、創設三十周年という一時期を画する年を迎えるにあたり、漁業経営を支える制度としての重要な役割をあらためて認識するとともに、新三か年運動としてスタートした「ジャンプアップぎよさいⅡ」運動を通じて、制度の高度利用と未加入重点漁業の加入促進により、不漁や災害への備えに万全を期さなければならぬと考えます。

また、暮らしをまもる「漁協の共済」につきましては、漁協元受け以来、事業体制の整備・強化、事業量の確保に努めてきましたが、とくに今年には元受け実施十年の記念すべき年にあたります。この元受け体制のもとで新たに策定した漁協事業の「第三の柱をめざす漁協の共済三か年計画」の初年度目標をまず達成するため、その実践運動である「暮らしケイション21」運動をいっそう強力に展開していかねばならないと考えます。

さらに、漁業者の老後生活の安定をめざして発足、三年目を迎えた「なぎさ年金」につきましても、漁協システムを挙げて大きく育ててゆくとともに、実施十三年目の「漁業有年金」につきましても、ひきつづき、加入者数の拡

新春のごあいさつ

大と年金額の増額運動の積極的な展開を期してまいりたいと存じます。「漁協共済」の確立は、明日の漁村づくりのために不可欠のことと確信するとともに、全国の漁協の皆さんと相携え、今年も力強く前進してまいりたいと思っております。

年頭挨拶



兵庫県信用漁業協同組合連合会
会長理事
木下 清

あけましておめでとうございます。平成六年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年をふり返ってみますと、異常気象ともいへば長雨・冷夏、さらには台風・地震と災害が打ち続き、各方面に与えた被害は甚大なものがありました。特にコメの凶作は戦後最大のものとなり、外国米の緊急輸入という事態にまでなりました。漁業には直接的な影響があったとはいええないものの、同時期に発生したエルニーニョ現象もあり、これからの無事息災を祈る気持ちでいっぱいです。

一方、わが国の政治・経済は、自然現象同様大きく揺れ動きました。

政界では、細川内閣が政治改革を旗じるしに誕生し、積年の課題に取り組みしましたが、その間にあっても、わが国の経済は、資産デフレと消費の落ち込みから一層不況色を増幅し、景気低迷は長期化の様相を呈しております。金融政策も公定歩合を史上最低の年一・七五パーセントにまで引き下げるなど支援の姿勢で臨んでいます。一向に効果があらわれない状況であります。その中において金融自由化は、スケジューリングの進展をみております。

昨年の本県漁業生産動向は、資源の減少と輸入水産物の増加などの影響で、生産量、生産金額とも或程度減少をみたのではないかと

推定されます。

本県漁業信用事業は、こうした経済金融環境、漁業経営実態の中で、苦悩しつつも将来方向をまさぐりながら一歩一歩前進を続けております。機能面では、オンラインシステムを背景とした「全国漁協貯金ネットサービス」を開始するなど、その拡充強化をはかっております。貯金・融資・為替の主要務について、終始熱意をもってお取り組みいただきました関係組合役員各位のご努力に対しまして、あらためて厚くお礼申し上げますとともに、引き続きご精進を賜りますようお願い申し上げます。

さて、新春を迎え今年一年を展望いたしますとき、国内の経済は民間需要の要である設備投資と個人消費の低迷などの要因から、景気底割れの懸念さえ出でてきており、依然として回復の兆しが見えないことから、好転はおぼつかないと思われ、公定歩合も史上最低水準が続くものと予想されます。又、金融自由化につきましては、最終段階の総仕上げの年となり、全ての預貯金金利は金融機関自身も決定する時代となり、わが漁協信用事業も、この競争の激流の中で歩を進めなければならぬと存じます。

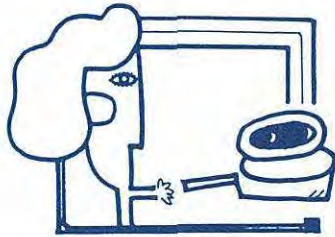
信漁連といたしましては、こうした状況を踏まえて全国運動「フォローアップアクション93」に呼応し、組合員等利用者に応え得る地域金融機関を目指し漁協と一体となって積極的に推進してまいりますとともに、漁協信用事業の使命と役割を果しつつ最善の努力を尽す覚悟でありますので、一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



冷凍変性の防止について

魚介類は家畜肉に比べて腐敗しやすい特性を持っています。その理由としては、生体の時から鰓や腸管に多数の細菌が付着していることがあげられますが、肉質自身に水分が多く、軟弱であることも大きく関わっていると考えられます。このように腐敗しやすい魚介類を長期間保存するためには、冷凍する他ないのが現状ですが、冷凍すると肉がパサパサになる場合（冷凍変性）があります。一般的に回遊性の魚は冷凍しても比較の変性は少ないのに対し、底棲性の魚は変性が顕著に認められる場合が多く、その代表としてカニ類があります。

但馬地方のベニズワイガニ漁は七・八月が禁漁であることから、加工業者の間



ではその期間の製品確保が課題となっています。ベニズワイガニを煮熟後、殻を取り除いた製品（以下煮熟かに肉とする）の長期貯蔵法としては冷凍が考えられますが、一般の加工業者が設置しているマイナス二十度程度の冷凍庫では短期間に冷凍変性が進行します。その結果、カニの身はパサパサになり、噛み切りにくくなってしまう。この冷凍変性を防止する方法としては、マイナス四十度程度で冷凍する方法と冷凍変性防止剤を添加する方法が考えられます。マイナス四十度で冷凍した場合、一ヶ月間保存してもほとんど変性は認められませんが、この方法ですと設備投資が大きくなるのが難点です。一方、冷凍変性防止剤の添加は安価で、簡易に行えますがカニに適した冷凍変性防止剤の検討はあまりなされていません。そこで今回は煮熟かに肉に適した冷凍変性防止剤の検索を行いました。

冷凍変性を防止する物質としてアミノ酸、カルボン酸および糖類が知られています。そこで、今回はこれらの物質の代表としてグルタミン酸ナトリウム、クエン酸ナトリウムおよびソルビトールを用

NOTE

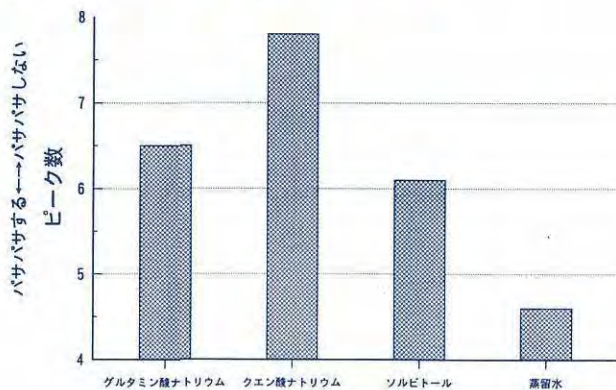


図1 ピーク数におよぼす冷凍変性抑制物質の効果

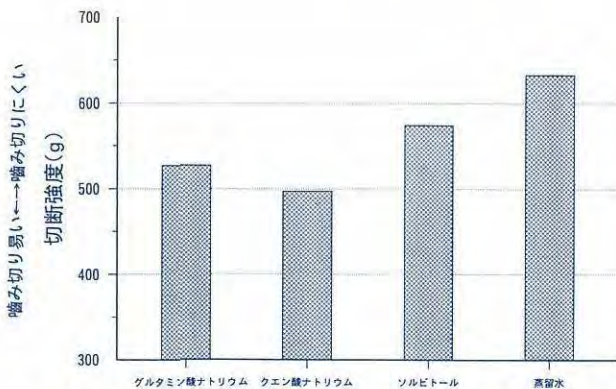


図2 切断強度におよぼす冷凍変性抑制物質の効果

いました。煮熟かに脚肉をナイロンポリ袋にとり、グルタミン酸ナトリウム、クエン酸ナトリウム、ソルビトールの10%溶液を添加し、溶液を浸透させた後マイナス二十度で冷凍しました。二週間後解凍し、パサパサ度、噛み切り易さ（冷凍変性）およびしっとり度（保水性）を測定し、冷凍変性防止効果を判定しました。

結果を図一、二に示しましたが、パサ度および噛み切り易さの両方において、クエン酸ナトリウム浸漬区が優れていました。なお、グルタミン酸ナトリウム浸漬区も良好でしたが、味覚の点で不敵であり、単独で用いるには問題がありました。また、ソルビトール浸漬区は「ばさつき」が感じられ、対照の蒸留水ではそれが顕著でした。またしっとり度についてもクエン酸ナトリウム浸漬区が最もしっとり度が高い結果となりました。以上のようにパサ度、噛み切り易さおよびしっとり度のすべてにおいてクエン酸ナトリウム浸漬区が優れていたことから、煮熟かに肉の冷凍変性防止にはクエン酸ナトリウムが適当と判断されました。このようにクエン酸ナトリウムは、冷凍変性防止効果が大きいうえに非常に安価であることから、煮熟かに肉以外への応用を現在検討しています。



高砂市四漁協 合併推進協議会 を結成



高砂市漁協合併推進協議会結成

去る十一月十九日、県下で姫路市、洲本市に続いて三番目の地区合併推進協議会として「高砂市漁協合併推進協議会」が結成されました。

この協議会は、五月に行われた高砂市内四漁協の組合長会、七月に行われた合同役員会の検討をうけ、組合員の高齢化・後継者の不足あるいは資源の減少等々、漁協を取り巻く厳しい状況の中、組合、行政、系統団体が一丸となり、「合併」を手段として漁協基盤の強化を促進し、高砂地区の漁業の発展に資することを目的に結成されました。

協議会は、四漁協の各組合長をはじめとする組合関係者十六名、県漁協合併推進協議会小委員会高砂地区担当委員三名、県水

産課副課長、高砂市生活経済部長、そして漁連播磨支所長の二十二名で構成され、事務局は高砂市が担当し、会長には高砂漁協白川組合長の就任が決まりました。

協議会の今後の活動として、合併に関する調査研究あるいは合併の基本的な構想策定等行い、「合併してよかった。」と思われる組合を目指し、検討していきます。

この日より高砂市の合併への検討は、正式に第一歩を踏み出したわけですが、今後様々な問題に直面すると思われます。しかし、白川会長の「合併するんだ。」という意志があればどんな問題でも解決できるはずだ。」という力強い言葉のとおり、納得のいくまで検討を行えば問題も乗り越えられると思われま。

また、県下の他の地区においても、十一月十七日に津名地区において合併に関する四組合合同役員研修会の開催を、同二十二日にも姫路地区において本年度二回目の姫路市漁協合併推進協議会の開催をされました。今後も漁協合併の説明、検討を重ねながら気運を盛り上げ、このほかの地区についても「一市町一漁協」を目指した合併を推進していきます。

ここで全国の合併進捗状況ですが、平成三年度までは年間二〜三件程度の実績にとどまっていた漁協合併も、平成四年度より増加傾向にあり、四年度では昭和四十九年度（十七件）以来の二桁台の十三件（参加漁協数四十六）の合併が行われました。そして、平成五年度は更に合併は進展し



津名4漁協「漁協合併問題」役員研修会

ており、十月末現在で既に合併は八件（参加漁協数三十九）、年度内に確実と思われるのが六件（参加漁協数十七）となっております。（全漁連、漁協合併等推進中央本部調べ。）

このように急速に合併機運が高まってきた理由としては、厳しい社会状況の中で農協も急速に合併を進めており、漁協関係も現状を考えれば他人ごとではなく、漁協の生き残りをかけた時代の大きな流れとして「合併」を認識し、真剣に検討を始めた地区が全国に多数でてきたためだと思われま。本県においても漁協をめぐる現状は大変厳しいものがあり、組合員や組合の将来を考え合併を真剣に考える時機にきているのではないでしようか。

TOPICS



挨拶を述べる県漁連青専務

淡路地区漁協役員研修会（主催・兵庫県漁連、共催・兵庫県水産振興基金）が、去る十二月四日、津名ハイツにおいて漁協役員等七十四名が出席し開催されました。

この研修会は、役員員の知識高揚を図り、漁協の健全な発展に資することを目的とするもので、青正輔・県漁連専務理事から主催者挨拶を述べた後、兵庫県本農林水産事務所副所長の野中大氏より来賓挨拶が述べられました。

研修の内容は、午前の部として、急速に変化する社会情勢に適切に対応するための役員・組合員のあり方及び今後の課題について、千葉県鶴原漁協の前組合長であり、南漁村経営研究所取締役の君塚福松氏より「漁業環境

淡路地区漁協 役員研修会 を開催



君塚氏による講演

の変化と漁協役員員のあり方」と題し、役員・職員の内構え・組合員の協力の重要性など、組合長在任中の経験を織交ぜながらの講演でした。

午後からは、成田法律事務所の弁護士 成田健治氏を講師に招いて「漁協の債権保全及



成田氏による講演

ひ不良債権の回収」と題し、漁協による継続的商品取引契約の効果・不良債権の回収及び法的手続き・有利な売買契約を締結するための注意点など専門家としての手法について、今後とも大変参考になる内容の講演となり、盛会裡に研修会を終了しました。

料金が断然安い!

Marinet

通話料金は
船舶電話の
約 **1/3**

船に/車に/携帯に!

マリネットフォン
Maya

ハイパワータイプ

コンパクトタイプ

操業をより安全に/情報交換をより正確に!
マリネットフォンは多彩な機能で操業をバックアップします。

- 海の110番が利用できます
- 無線従事者の配置が不要
- グループ通話が可能です
- 全国のNTT加入電話と通話ができます

◎ハイパワータイプは、市販のコードレス電話やファクシミリ等と接続できます。
詳しくは、下記までお問い合わせください。

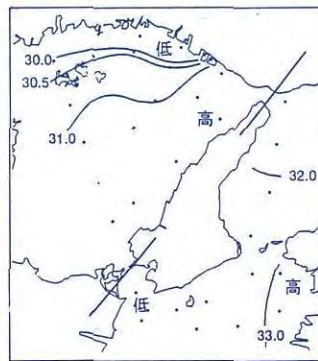
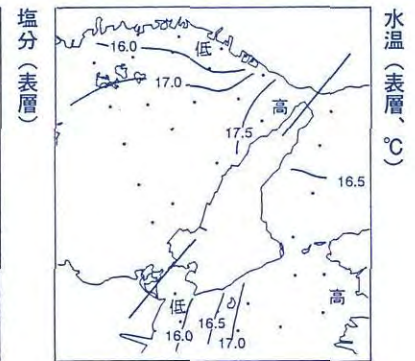
関西マリネット株式会社
本社：神戸市中央区港島中町6丁目9番1 神戸国際交流会館7F 〒650

お問い合わせ・お申し込みは ☎ **0120-303-245** までお気軽にどうぞ。

漁海況情報

兵庫県立水産試験場

である。
船曳網 しらす漁は、漁獲量は少ないものの中旬まで漁が続いた。秋漁全体の漁獲は春漁と同様に低調であった。一方、紀伊水道ではサヨリの漁獲が見られる。



海況

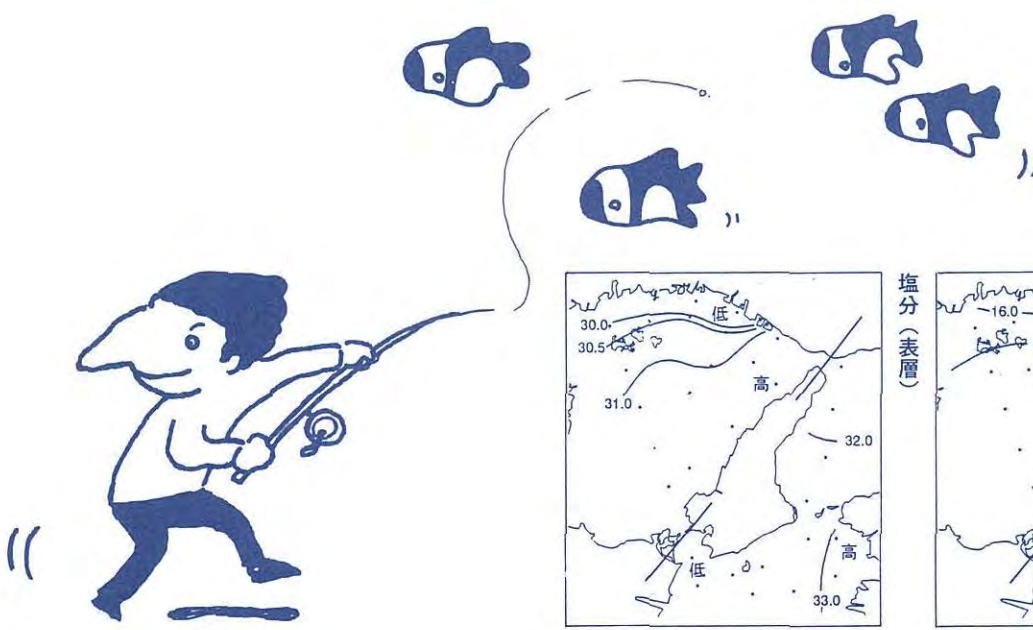
明石海峡周辺 十二月十五日の調査結果によると、明石海峡の表層水温は十五・一℃であり、平年より高目の水温である。

大阪湾西部・紀伊水道北部 十二月十四日の調査結果によると、大阪湾西部の表層水温は十六・一〜十六・八℃の範囲にあり、平年よりやや高目となっている。また、紀伊水道北部の表層水温は十五・九〜十七・三℃の範囲にあり、平年よりやや高目となっている。

播磨灘 十二月一〜二日に実施した調査の結果によると、播磨灘の表層水温は十六・六〜十七・七℃の範囲にあり、平年よりやや高目を示している。

小型底曳網 明石海峡周辺の漁場では、マダコ、イイダコ、アナゴ、カレイ類などが主に漁獲されている。今月に入ってから再びマダコの漁獲が増加し、イイダコも好漁で推移している。一方、紀伊水道では、ジャンメガザミ、マダイ、小型エビ類などが主に漁獲されている。

一本釣・曳縄釣 明石海峡及びその周辺海域では、タチウオ、スズキ、カサゴなどが主に漁獲されている。一方、紀伊水道ではタチウオ、マダイ、マアジが主に漁獲されている。タチウオの漁獲が引き続き順調



海区漁業調整委員会だより

十二月二十二日

第二〇回兵庫県瀬戸内海海区漁業調整委員会及び委員協議会を兵庫県民会館で開催

第二〇回委員会

一、岡山・兵庫瀬戸内海連合海区漁業調整委員会の平成六年度入会協定内容について

平成六年二月開催予定の連合海区委員会における協定内容につき、西播磨及び淡路西浦関係の意見聴取結果を地元委員から報告。前年どおりの協定内容で臨むことに決まる。

委員協議会

一、区画漁業(魚類養殖)漁場計画の事前協議について

平成六年四月一斉切り替えに係る漁場計画案につき水産課から説明あり了承する。次回委員会に諮問予定。

二、平成六年度播磨灘及び小豆島北部海域における網口開板及び戦車マンガ漁業操業協定について

岡山、香川、兵庫県瀬戸内海の三海区協定につき事務局より説明、毎年四月更新となるので、それまでに関係委員で検討し三月の委員会において審議決定する。

三、第二十八回全国海区漁業調整委員会連合会西日本ブロック会議の結果報告について

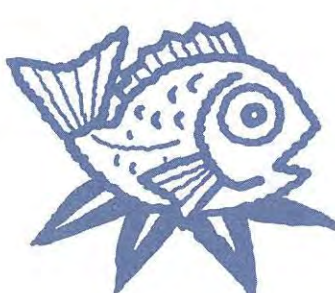
十一月二十四日高松市で開催されたブロック会議の結果状況を報告、この会議で本海区から提案した遊漁調整対策強化、委員会交付金増額は採択され全国段階に上げることに決まった。

十二月十四日

但馬海区漁業調整委員会委員協議会を香住町漁協会議室で開催

一、十九トン型小型いかつり漁業の新規着業許可の取扱い等について(協議)

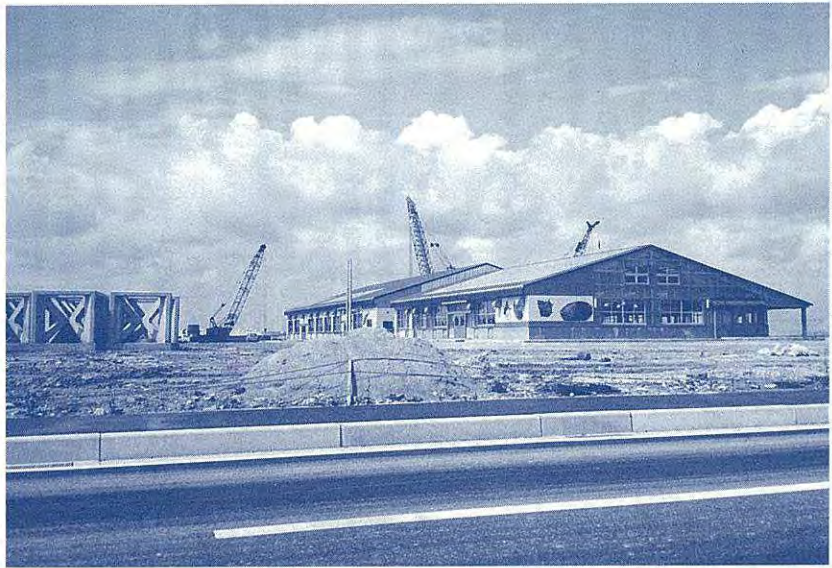
懸案となっている「今後の沿岸いかつり漁業調整の具体策」のうち、県内船十九トン型の新規着業許可の是非等につき、沿岸漁業者の意向等も十分検討しながら長時間にわたり慎重に審議。その結果、過去に既存業者の違反操業が相当あったことから沿岸漁業者の不信感或いは不安感が残っているが、「但馬漁業の将来を考えれば後継者対策や組合活性化対策上、伸びる者は伸ばしてやる必要がある」との意見で一致し、関係者が協力して違反の未然防止等に係る指導及び監視体制の強化を図ることを条件として、新規許可を認めることに決定。





栽培漁業センターです

64



現在建設中の兵庫県但馬栽培漁業センター

あけましておめでとうございます。本年も栽培漁業センターをよろしく願います。

昨年末は、うららかな天気が続き、栽培漁業センター地先の水温は十二月上旬で約十五℃でした。これは例年に比べて一℃程高く、

日数的には五日前後水温の下降が遅れています。このため、マコガレイの種苗生産事業は年末から採卵を行い、年初めより飼育を開始の予定に、遅れが出ないか心配している処です。

さて、栽培漁業センターの今年を振り返って見ると、種苗生産においては、まずまずの一年であったと思います。具体的にはヒラメ、マコガレイの場合、今年は疾病も無く、生残率も七十〜八十%と良好でした。それと、これらの異体類で問題となる白化魚の出現も二十〜三十%と、例年に比べ十〜二十%も減少しました。もう一つの魚種であるマダイにおいても順調に飼育でき、平均生残率が三十%

を超えました。また、隣接地である二見事業場で生産しているガザミは、去年から問題とされてきた、真菌症の発生が見られたものの、屋外でも飼育を行った結果なんとか生産することができました。

話は変わりますが、今年四月には、先般来、県が但馬の香住東港埋立地に鋭意建設中であつた兵庫県但馬栽培漁業センターが竣工開所すると聞いています。私共栽培漁業協会では県の依頼を受けて、内海側センター同様に、このセンターも委託運営することを昨年末に決めました。従つて今年からは内海・但馬と二か所の運営センター、及び津名・二見・赤穂と三か所の協会事業場を運営致します。私共協会職員三十名は放流用種苗生産を通じて、少なりとも県下水産業の振興に役立つよう、益々頑張りたいと考えておりますので、ご理解ご鞭撻の程をお願い致します。

(兵裁協 樟 秀隆)

普及員だより

技術交流事業について

新年あけましておめでとうございます。本年も昨年同様「普及員だより」をご愛読くださいますようお願い申し上げます。

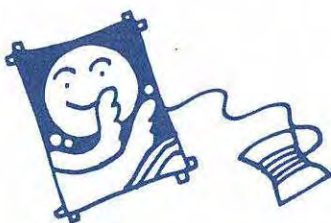
さて、今回は、昨年十月に行いました技術交流事業についてお話ししたいと思います。技術交流事業は、漁業に関する技術・知識の向上を図るため、先進地を視察して技術等の交流活動を行う事業ですが、今年度は、長崎県の厳原町漁業協同組合に「ブリの飼付漁業」の視察にいったまいました。

港から船で十五分くらい沖に出たところにブイがふたつ浮かんであり、そのブイの間に船をつないで、イワシを細かく切った餌をまくと、すぐにウマズラハギが寄ってきました。しばらく、ハゲ掛けをして時間をつぶしていましたが、三十分くらいたつと、待望のブリが回遊してきました。水面すれすれをゆうゆうと泳ぐブリ、餌のイワシをかけて五〜六mほど投げるとすぐに食い付き、それを力まかせに船に引き上げる漁師さん。二時間程で港に帰った船は釣り上げられたブリでいっぱいになっていました。その様子を視察者一同驚くばかりでした。

また、それから二週間後、厳原町漁業協同組合の方々が、「ソテイカ釣」の視察に柴山港漁業協同組合を訪れました。交流会では、一度顔をあわせた強み？からか、ブリ・ソテイカの話だけでなく、厳原町漁協からは屋イカ釣、当方からはヒラメ釣の話も出てたいへん有意義な交流会でした。

技術交流事業は一方通行的なものが、今回は相互交流的な事業ができ今までのない充実感がありました。

(兵庫県 但馬水産事務所)



◆材料◆ (4人分)

たちうお (おろしたものを) 200g

卵.....4個

人参.....100g

醤油 }各大さじ2
 みりん }
 酒 }
 塩 }各少々
 こしょう }
 揚げ油 }

●たちうおの厚焼卵●



一宮町漁協・尾崎支所婦人部アイデア料理

◆作り方◆

- ①たちうおは三枚におろし、醤油・みりん・酒に二十分ほどつけて焼く。
- ②人参は、短冊切りにしてから揚げする。
- ③とき卵に塩・こしょうを入れ、味をつける。
- ④フライパンに油をひき、③を一度に流し込み、から揚げした人参を芯にしてたちうおを並べて焼きあげる。



旬の美味い話 ⑮



兵庫JCC通信
今、JA・生協では



「消費者のためのPL法を！」
全国消費者大会・
PL法早期制定を求める決起集会

消費者重視といわれながら、相変わらず消費者被害が頻発していますが、こうした被害から消費者を守ろうと、製造物責任法(PL法)の早期制定を求める全国決起集会が、十一月十八日、東京・日比谷野外音楽堂で開かれ、全国から日本生協連をはじめとする百五十五団体、二千人が集まりました。

この決起集会は、全国消費者大会全体会を兼ねて行われたもので、兵庫県からは三生協四十三人が参加しました。

コープこうべの参加者代表は、土井たか子衆議院議長に直接請願したほか、PL法の制定を実現しようと、国会への請願署名に取り組んできたコープこうべをはじめとする県下の生協が集約した百七万人をこす署名を、県下選出の国会議員を通じて、国会に届けました。ちなみに全国では三百万人をこえる署名が集まっています。



こうした消費者の声に、政府は、PL法の制定に踏みきったようですが、問題は法律の内容。現在、欠陥の推定規定を設けないなど内容の後退が目立っているため、集会では骨抜き立法を許さないように取り組みを強めていくことなどを確認しました。また、この全体会に先立って行われた分科会では、消費者の立場から社会・経済システムを構築する必要がある、等のまとめがありました。

農政や減反厳しく批判
ともに米を考えようフォーラム



自給へ熱心な討議が行われたフォーラム
本日の農業情勢と日

兵庫県下の米生産、流通、消費の各代表が稲作農業のあり方を議論する「ともに米を考えようフォーラム」が十二月四日、神戸市の神戸国際会議場で開かれ、県下各地から参加した約五百人が熱心に耳を傾けました。

まず、評論家の秋元秀雄氏が国際情勢と日本の農業をテーマに話した後、森島賢東京大学農学部教授が凶作について、「米不作は天災だが、不足は人災だ。政府の米備蓄が五十万トン程度しかなかったため、緊急輸入という事態を招いた」と、農政の失敗を厳しく批判しました。

続くパネル討議では、東川泰規・県稲作経営者会議会長が「米は国内で自給すると国は約束したが、本当に自給する気があるのか」と訴えました。

また、青瀬剛・コープこうべ常務が「安全な米を安定供給することが使命。減反政策を見直し、備蓄をはかるべきだ」と話す一方、長本政子・県消費者団体連絡協議会事務局長は「消費者が農業の姿を知る機会を増やせば、生産者の手を携えてやれる」と提案した。

最後に司会の保田茂・神戸大学農学部教授が「国民の暮らしを守るためにも、食料の自給体制を確立すべきだ」と締めくくった。

謹賀新年

本年もよろしくお願ひ申し上げます

兵庫県漁業協同組合連合会

会長理事 酒部 龍三
専務理事 青 正輔
常務理事 林 一成
〒 652 神戸市兵庫区中之島二二一一
電話(〇七八)六五二一三四四

兵庫県信用漁業協同組合連合会

会長理事 木下 清
専務理事 天野 栄蔵
〒 652 神戸市兵庫区中之島二二一一
電話(〇七八)六八一八八八五

兵庫県漁業共済組合

組合長理事 吉岡 修一
専務理事 坂井 登
〒 652 神戸市兵庫区中之島二二一一
電話(〇七八)六八一八八七〇

兵庫県漁業信用基金協会

理事長 矢野 弘雄
専務理事 藤原 力
〒 652 神戸市兵庫区中之島二二一一
電話(〇七八)六八一八五六三

(財)兵庫県水産振興基金

役員 一同
〒 652 神戸市兵庫区中之島二二一一
電話(〇七八)六八一八三七九

(財)兵庫県栽培漁業協会

理事長 酒部 龍三
専務理事 田寺 伸彦
〒 674 明石市二見町南見三一一
電話(〇七八)九四三七八一三

兵庫県内海漁船保険組合

組合長理事 鯛 正次郎
専務理事 岡本 敏夫
〒 650 神戸市中央区中山手通七丁目
電話(〇七八)三六一八八三七

但馬漁船保険組合

組合長理事 村瀬 和夫
専務理事 山脇 日出男
〒 669-65 城崎郡香住町香住一八五二一四
電話(〇七八)三六一一一二二

(財)兵庫県水産公害対策基金

役員 一同
〒 652 神戸市兵庫区中之島二二一一
電話(〇七八)六五二一六九二

兵庫県瀬戸内海漁業操業安全協会

会長 森 吉一
事務局長 岩間 省三
〒 650 神戸市兵庫区中之島二二一一
電話(〇七八)六八一八三七三

兵庫県漁港協会

会長 青山 幸男
事務局長 岡本 伊三雄
〒 650 神戸市中央区北長狭通五丁目五一八
林業会館四〇四号
電話(〇七八)三五二一六二〇七

兵庫漁業協同組合

組合長理事 湯本 一郎
神戸市兵庫区吉田町三十七一八九
電話(〇七八)六七二七二九八

神戸市漁業協同組合

組合長理事 山田 春三
神戸市垂水区平磯三一一一〇
電話(〇七八)七〇六〇四五六

東明石浦漁業協同組合

組合長理事 村上 岩光
明石市中崎二一一一六
電話(〇七八)九三二二五二一

明石浦漁業協同組合

組合長理事 炭谷 恒男
明石市岬町三三一
電話(〇七八)九二二二七七二

林崎漁業協同組合

組合長理事 石井 一朗
明石市林三一九一七
電話(〇七八)九三二二五二〇

江井島漁業協同組合

組合長理事 橋 太三
明石市大久保町江井島四一八一六
電話(〇七八)九四六一三三三

魚住漁業協同組合

組合長理事 竹本 昭六
明石市魚住町中尾八九一
電話(〇七八)九四六一三三三

東二見漁業協同組合

組合長理事 岸本 新次
明石市二見町東二見〇一九
電話(〇七八)九四二二二〇二〇

西二見漁業協同組合

組合長理事 大上 正一
明石市二見町西二見二〇〇三一二
電話(〇七八)九四三二二〇五

播磨町漁業協同組合

組合長理事 筒井 宗夫
加古郡播磨町古宮七六八
電話(〇七八)九四二二九二二

別府町漁業協同組合

組合長理事 川崎 十九男
加古川市別府町港町八番地
電話(〇七八)三五〇四二二

尾上漁業協同組合

組合長理事 森川 福見
加古川市尾上町池田八〇一一
電話(〇七八)二四一〇〇四三

高砂漁業協同組合

組合長理事 白川 定男
高砂市高砂町材木町二九八
電話(〇七八)四一〇二七八

荒井漁業協同組合

組合長理事 石原 貞夫
高砂市荒井町南栄町三一〇
電話(〇七八)四一三三五八五

伊保漁業協同組合

組合長理事 早川 正一
高砂市高須一八一八
電話(〇七八)四八八五三〇〇

大塩町漁業協同組合

組合長理事 濱野 久良
姫路市大塩町二四二一四
電話(〇七八)五四二二五五三

的形漁業協同組合

組合長理事 中沢 卓生
姫路市の形町福泊四九一一二
電話(〇七八)五四四四二七二

八木漁業協同組合

組合長理事 須多 和秀
姫路市木場二三八八一
電話(〇七八)四五二八八四〇

白浜漁業協同組合

組合長理事 浜田 繁喜
姫路市白浜町丙六一二
電話(〇七八)四五二〇三五

妻鹿漁業協同組合

組合長理事 金澤 義之
姫路市飾磨区妻鹿七九一一二
電話(〇七八)四五二一五四二

阿成漁業協同組合

組合長理事 中野 昭道
姫路市飾磨区阿成一二七七
電話(〇七八)三五二五八三〇

飾磨漁業協同組合

組合長理事 釣 秀雄
姫路市飾磨区大浜三〇
電話(〇七八)三五二〇九〇一

広畑漁業協同組合

組合長理事 吉田 稔彦
姫路市広畑区東新町一六
電話(〇七八)三六一五五四四

大津漁業協同組合

組合長理事 高田 保男
姫路市大津区勸兵衛町一五五
電話(〇七八)三六一五三三三

<p>網干漁業協同組合 組合長理事 塚瀬 三代司 姫路市網干区興浜二〇九三―一三三 電話(〇七九二)七四―〇三〇四</p>	<p>福浦漁業協同組合 組合長理事 有吉 智 赤穂市福浦三七九―一 電話(〇七九一)四三―〇六〇九</p>	<p>佐野漁業協同組合 組合長理事 島田 正夫 津名郡津名町佐野二〇九一―一 電話(〇七九九)六五―〇〇五四</p>	<p>室津浦漁業協同組合 組合長理事 岡野 修 津名郡北淡町室津一四九一―八 電話(〇七九九)八四―〇〇一四</p>	<p>津居山港漁業協同組合 組合長理事 木下 清 豊岡市津居山三二七 電話(〇七九六)二八―三三三二</p>
<p>家島漁業協同組合 組合長理事 中村 庄助 飾磨郡家島町宮一〇―一 電話(〇七九三)五―〇〇〇七</p>	<p>由良町中央漁業協同組合 組合長理事 社家 美和男 洲本市由良一四一―五 電話(〇七九九)二七―〇五五五</p>	<p>釜口漁業協同組合 組合長理事 川西 實利 津名郡東浦町釜口四二五 電話(〇七九九)七四―三五六六</p>	<p>一宮町漁業協同組合 組合長理事 魚井 久喜 津名郡一宮町郡家一三五五 電話(〇七九九)八五―〇〇〇二</p>	<p>竹野浜漁業協同組合 組合長理事 片山 平嗣 城崎郡竹野町竹野五〇五―六 電話(〇七九六)四七―二八八</p>
<p>坊勢漁業協同組合 組合長理事 上村 孝一 飾磨郡家島町坊勢六九七 電話(〇七九三)六―〇三三二</p>	<p>由良漁業協同組合 組合長理事 岩下 亮一 洲本市由良二六―一三三 電話(〇七九九)二七―〇〇五一</p>	<p>仮屋漁業協同組合 組合長理事 武田 嘉一 津名郡東浦町仮屋二二―一 電話(〇七九九)七四―二〇五七</p>	<p>五色町漁業協同組合 組合長理事 柳 里 津名郡五色町都志方才四九四―一 電話(〇七九九)三三―〇〇五九</p>	<p>柴山港漁業協同組合 組合長理事 村瀬 和夫 城崎郡香住町神浦九二―一八 電話(〇七九六)三七―〇三〇一</p>
<p>苅屋漁業協同組合 組合長理事 榊野 政一 揖保郡御津町苅屋六八二 電話(〇七九三)二一―〇五八六</p>	<p>東由良町漁業協同組合 組合長理事 榎本 實 洲本市由良四一―一七 電話(〇七九九)二七―〇二三三</p>	<p>森漁業協同組合 組合長理事 森 吉一 津名郡淡路町久留麻三〇五―五 電話(〇七九九)七四―二二〇五</p>	<p>湊漁業協同組合 組合長理事 杉谷 佳数 三原郡西淡町湊一〇〇 電話(〇七九九)三六―一〇二〇</p>	<p>香住町漁業協同組合 組合長理事 吉岡 修一 城崎郡香住町若松七四七 電話(〇七九六)三六―一三三二</p>
<p>岩見漁業協同組合 組合長理事 神頭 宇市 揖保郡御津町岩見一三〇―八一五 電話(〇七九三)二一―〇〇二四</p>	<p>洲本漁業協同組合 組合長理事 鯛 正次郎 洲本市海岸通一六―一八 電話(〇七九九)二一―〇五六八</p>	<p>浦漁業協同組合 組合長理事 新阜 龜吉 津名郡東浦町浦八四―一三 電話(〇七九九)七四―一三二〇</p>	<p>丸山漁業協同組合 組合長理事 小川 守男 三原郡西淡町阿那賀一四六三―六 電話(〇七九九)三九―〇〇〇五</p>	<p>浜坂町漁業協同組合 組合長理事 川越 榮一 美方郡浜坂町若屋六六三―一 電話(〇七九六)二一―三〇二〇</p>
<p>室津漁業協同組合 組合長理事 中川 三二 揖保郡御津町室津四九三―二地先 電話(〇七九三)四―〇三三二</p>	<p>炬口漁業協同組合 組合長理事 西岡 美彰 洲本市炬口一―一 電話(〇七九九)二一―〇三六七</p>	<p>淡路町漁業協同組合 組合長理事 岩城 賢治 津名郡淡路町若屋一四一―四一 電話(〇七九九)七―一三〇四六</p>	<p>阿那賀漁業協同組合 組合長理事 坂口 美之助 三原郡西淡町阿那賀九八三―三 電話(〇七九九)三九―〇〇一〇</p>	<p>由良町漁業協同組合連合会 会長理事 榎本 實 洲本市由良二六―一三三 電話(〇七九九)二七―一〇六〇</p>
<p>相生漁業協同組合 組合長理事 鳥井 勝明 相生市相生三一―四一―三二 電話(〇七九二)二一―〇三四四</p>	<p>塩田漁業協同組合 組合長理事 塩谷 良重 津名郡津名町塩尾六一五―一四地先 電話(〇七九九)六一―〇一七四</p>	<p>富島漁業協同組合 組合長理事 阿部 春雄 津名郡北淡町富島字小倉浜九四〇 電話(〇七九九)八二―〇〇一八</p>	<p>福良漁業協同組合 組合長理事 酒部 龍三 三原郡南淡町福良乙六一五―二二 電話(〇七九九)五一―〇〇六四</p>	<p>明石市水産加工業協同組合 組合長理事 井上 角一 明石市林三―五―一七 電話(〇七八)九三―三三八六</p>
<p>坂越漁業協同組合 組合長理事 江崎 巖 赤穂市坂越七九五―一 電話(〇七九一)八―八〇四五</p>	<p>志筑浦漁業協同組合 組合長理事 柏木 和二郎 津名郡津名町志筑三三二―八―三 電話(〇七九九)六一―〇〇六九</p>	<p>浅野浦漁業協同組合 組合長理事 森 侑 津名郡北淡町斗ノ内五五三 電話(〇七九九)八一―〇〇六四</p>	<p>南淡漁業協同組合 組合長理事 奥野 進 三原郡南淡町灘土生四五 電話(〇七九九)五六―〇〇〇二</p>	<p>淡路島水産加工業協同組合 組合長理事 柴田 武 津名郡津名町佐野二七八―一一 電話(〇七九九)六五―〇〇七〇</p>
<p>赤穂漁業協同組合 組合長理事 耳田 龍夫 赤穂市御崎字大塚一七九八―一 電話(〇七九一)五―一三六〇</p>	<p>生穂漁業協同組合 組合長理事 松原 幸次 津名郡津名町生穂一五五三―一七 電話(〇七九九)六四―〇一〇七</p>	<p>育波浦漁業協同組合 組合長理事 嵐 操 津名郡北淡町育波一四八―一三 電話(〇七九九)八四―〇〇三二</p>	<p>沼島漁業協同組合 組合長理事 青石 協 三原郡南淡町沼島三三六八―一 電話(〇七九九)五七―〇二四六</p>	<p>香住町水産加工業協同組合 組合長理事 西川 勇 城崎郡香住町香住一八五四 電話(〇七九六)三六―一〇三三</p>

●サンテレビの

こちら海です



かにすき
ぞうすい早食い大会のリポーター
(右から4人目)



かすみ朝市センター

'93.12月26日放送
(第848回)

ロケだより

香住・いい冬・冬便り

～兵庫県城崎郡香住町より～

但馬・理想の都の祭典も来年春のオーブニングを前に、但馬各地は盛り上がり見せています。但馬の祭典は5つの文化展を中心、一市二十八町で百を超すイベントが一年に亘って繰り広げられます。

香住町は、その文化展のひとつ「但馬・海中公園展」の会場となります。海中公園展が開催されるのは香住東港。その会場で今年十一回目を迎えた「カニ場まつり」が、但馬の祭典のプレイベントとして十二月五日開かれました。お目当ての松葉ガニから特産品の魚介類や加工品、農産物が並ぶ中、なんと去年より一万人も多い四万五千人が訪れ、楽しい一日を過ごしました。また、但馬の祭典に先立って香住の新名所も次々と誕生しました。

ひとつは、海中公園展の開かれる香住東港にオープンした「かすみ朝市センター」。ここは町内選りすぐりの加工屋さん等で経営する、名の通り魚介類のマーケットです。それぞれカニを中心に、思いの店構えで熱気あふれる市場です。遠く四国から来たお客さんや阪神各地からのお客さんがカニやエビを買い占めて帰ります。沢山の店があるので価格が安定していて、安心して買えるのが魅力です。

二番目が香住町漁協直営の「遊魚館」。目玉は活カニを入れる大きな水槽で、この中の活きたままのカニを自分で選んで買えるのが人気となっています。香住町漁協のすぐ西隣りにオープンしたこの遊魚館は、市場で朝セリ落された物が生や加工されてすぐ店に並ぶ

のが嬉しい店です。漁協の話によると、ここが海と人とを繋ぐ一つの拠点になってくれればと願い、力を入れているということでした。そして三つ目が柴山港漁協直営店他からなる「カニ一番館」。一番館の特徴は、柴山港のセリ場のすぐ前にあるという事です。早朝であるにもかかわらず、民宿のお客さんがセリ風景を興味深く見物に来るのは何処も同じですが、この柴山ではセリで「あの魚がほしいナア」と思えば、すぐ前のカニ一番館へ行けば買えるという楽しみがあります。

新名所として誕生したこれらは、勿論来年の但馬の祭典で香住を訪れた人達に見て、食べて、遊んで香住を満足してもらいたいという気持ちで創られたのです。

「第十一回カニ場まつり」の当日は生憎の雨模様でしたが、恒例の「かにすきぞうすい早食い大会」は寒さを吹っ飛ばす盛り上がり。五分間でお椀半分程のぞうすいを何杯食べられるかの競争なのですが、優勝は十九杯半を食べた男性でした。リポーターの面谷佐知も大奮闘の六杯半…。カニ売場は、九時開場を待ちかねて八時過ぎからお客さんが殺到し、十時過ぎには「売切れ御免」の大賑ひのまつりでした。

「町民一体となって、今年の但馬の祭典を盛り上げ、又来たいと思うような香住にしたい、但馬の祭典を新たな起爆剤にして更なる魅力ある香住を創造したい」と語る青山町長のお話、但馬の明日を語る熱っぽさを感じました。

1994年1月10日発行 通巻447号
昭和32年10月18日 第3種郵便物認可

発行人 兵庫県漁業協同組合連合会

発行所 兵庫県漁業協同組合連合会
(財)兵庫県水産振興基金

〒652 神戸市兵庫区中之島2-2-1

TEL 652-3424
FAX 671-6685

定価80円(本体78円)